

健康長寿に係る先進的な取組事例

草加市

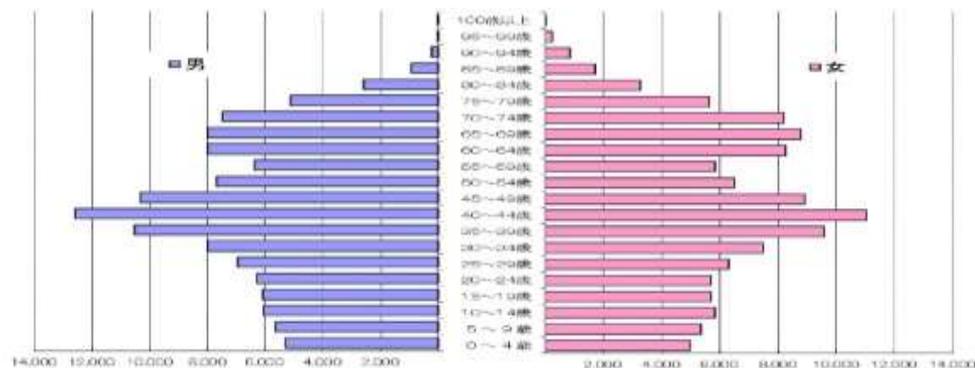
～子から親へのメッセージ 特定健診受診勧奨～

(1) 草加市の概要

草加市は、埼玉県の東南部に位置し、市の南部を東京都足立区に接している。

昭和33年に人口3万人で市制を施行した。東武線沿線の宅地開発や東京メトロ日比谷線の相互乗り入れ、また、当時東洋一のマンモス団地といわれた松原団地の造成等により人口が増え始めた。その後、東京近郊という立地条件から人口は急激に増え、現在では24万人を超える市となった。

年齢別・男女別人口（平成26年1月1日現在）



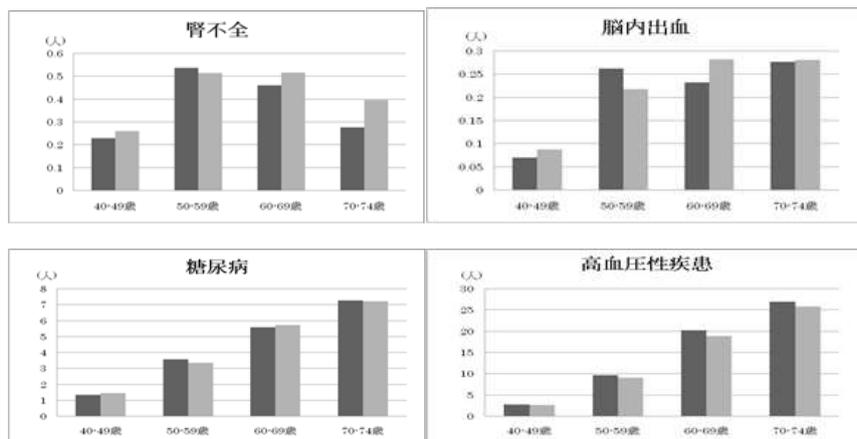
(2) 取組の契機

(ア) 特定健診受診率と生活習慣病

草加市における特定健診受診状況のうち、若い世代である40～50歳代を県内他市町村と比較した場合、受診率は低くなっている。また、疾患別の受診件数（100人あたりの受診件数）を年代別にみると、高血圧性疾患では50歳以降の年齢が県内平均を上回っており、糖尿病、脳内出血では、50歳代の件数が県内平均を上回っている。さらに、脳内出血と腎不全では、受診件数のピーク年齢が50歳代であり、県内平均の60歳代と比較すると一世代前倒しで診療のピークを迎えていることがわかる。

このことから、草加市は、高齢化率が20.8%と低く、比較的若い年齢構成の市ではあるが、生活習慣病で受診している市民の割合が他市町村と比べて高く、また若い世代から罹患しているということが分かる。

■ 草加市 ■ 県内市町村全体



以上、統計より見えてきた草加市の特性を考慮し、より効果的な取組みとなるよう40～50歳代を対象に、特定健診の受診率を上げる方法を考えた。

(イ) 取組の概要

親子が参加する市内の行事にブースを設け、親子で体を動かす習慣をつけることに併せ、特定健診の受診勧奨を目的に事業を実施した。具体的には、行事に参加している幼児から中学生を対象に、運動したらチェックをつけていく「メッセージ入りがんばりシート」に、親や祖父母あてに「いつまでも健康でいてほしい」という思いを込めた、言葉や絵を書いてもらい、がんばりシートを完成させ、プレゼントとした。

シートには、健康づくりの参考にしてもらうため、特定健診や食事についての情報を掲載した。





(ウ) 取組の内容

事業名	すこやかキッズ
事業開始	平成23年度（すこやかキッズは平成16年度より。このうち特定健診の受診勧奨は平成23年度より実施）

	平成26年度	平成25年度
予算	色上質紙2枚 2,400円	色上質紙2枚 2,400円
参加人数	289人+α (平成27年1月実施予定)	542人
期間	平成26年11月～平成27年1月	平成25年11月～平成26年1月
実施体制	保険年金課職員1人 保健センター 管理栄養士1人、 保健師2人	保険年金課職員2人 保健センター 管理栄養士1人、 保健師2人
実施内容	メッセージ入りがんばりシート づくり 親子で体を動かすことを目的とした	紙製で幅5cmのメタボメジャー づくり (平成23年～平成25年まで) 腹囲測定用として使用する。

①シート・看板の作成（平成26年10月）

親子で一緒に毎日の運動の内容が記入できるように作成した。余白に特定健診、食事等についての健康増進に関する情報を掲載した。

②行事開催者との打ち合わせ（平成26年10月）

ブースの場所、内容に関しての打ち合わせをした。

③シートへの記入

行事に参加している親子に声をかけ、シートへ子ども自身の言葉や絵でメッセージを記入してもらう。記入が終わったらプレゼント用の袋とリボンでラッピングし、子どもから親または祖父母に渡してもらった。

（エ）取組の効果

①特定健診の受診効果

特定健診の受診勧奨は平成23年度から始めているが、当初勧奨できた件数は少なく効果をみることは難しかったが、平成24年度からは、勧奨件数を増やすことができた。

平成24年度と平成25年度の40～50歳代の特定健診受診数を比較すると、24年度は5,836人だったが25年度は6,400人と受診者数が増えている。受診勧奨を行った効果か定かではないが、子どもからの直接の呼びかけは受診勧奨の手段として有効であると考えられるので、今後も継続していきたい。

②市にとっての効果

特定健診の受診者数が増えることにより、メタボリックシンドロームの予防や、重症化を予防することができる。また、その結果、国民健康保険における医療費を削減することができるため、市民にとっても市にとってもメリットがあると考えられる。

（オ）成功の要因、創意工夫した点

①家族で取り組める

大人だけを対象にしても、なかなか関心を持ってもらうことができないが、子どもからアプローチすることにより、シートに目を通したり、興味を持ったり、親子で一緒に、楽しく行動できることが期待できる。

(カ) 今後の取組

①効果が見えにくい

特定健診対象者のごく一部にしか受診勧奨をしないため、市の国民健康保険被保険者全体での受診勧奨の効果は把握できない。

しかし、若い世代への動機づけとして有効であると考えられることから、今後も継続して取り組んでいく。